

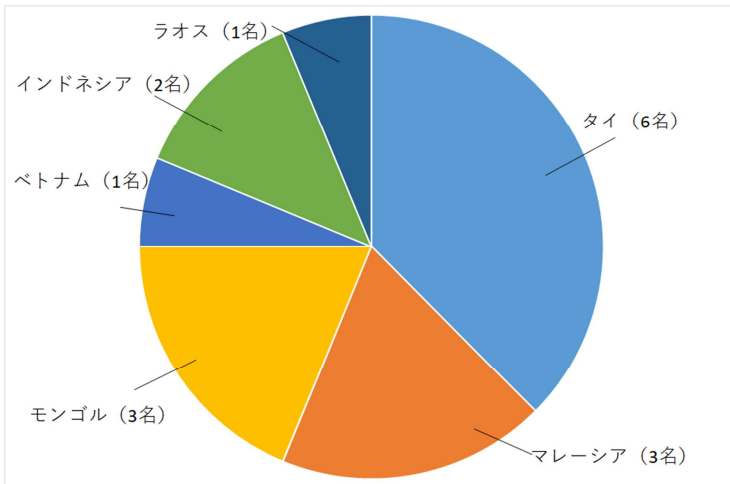
津山高専留学生へのアンケート結果について

1.実施期間 令和3年6月18日(金)~28日(月)

2.対象者:津山工業高等専門学校留学生 19名(タイ7名、マレーシア4名、カンボジア1名、
モンゴル3名、ベトナム1名、インドネシア2名、ラオス1名)

3.調査内容・回答結果(回答者:16名)

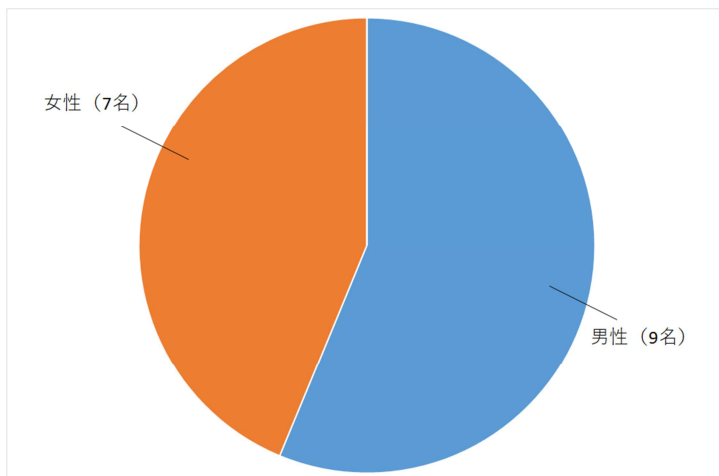
Q1 出身の国はどこですか?(いずれか1つ選択)



回答者16名の内訳は次のとおり。

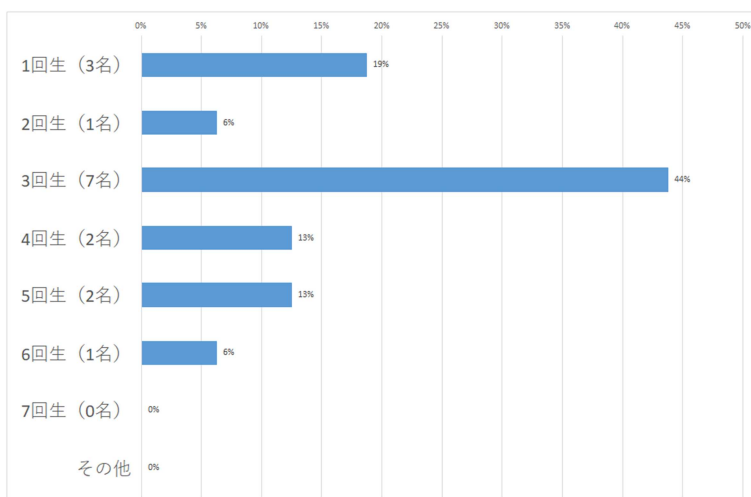
タイ 6名
マレーシア 3名
モンゴル 3名
ベトナム 1名
インドネシア 2名
ラオス 1名

Q2 性別は何ですか?(いずれか1つ選択)



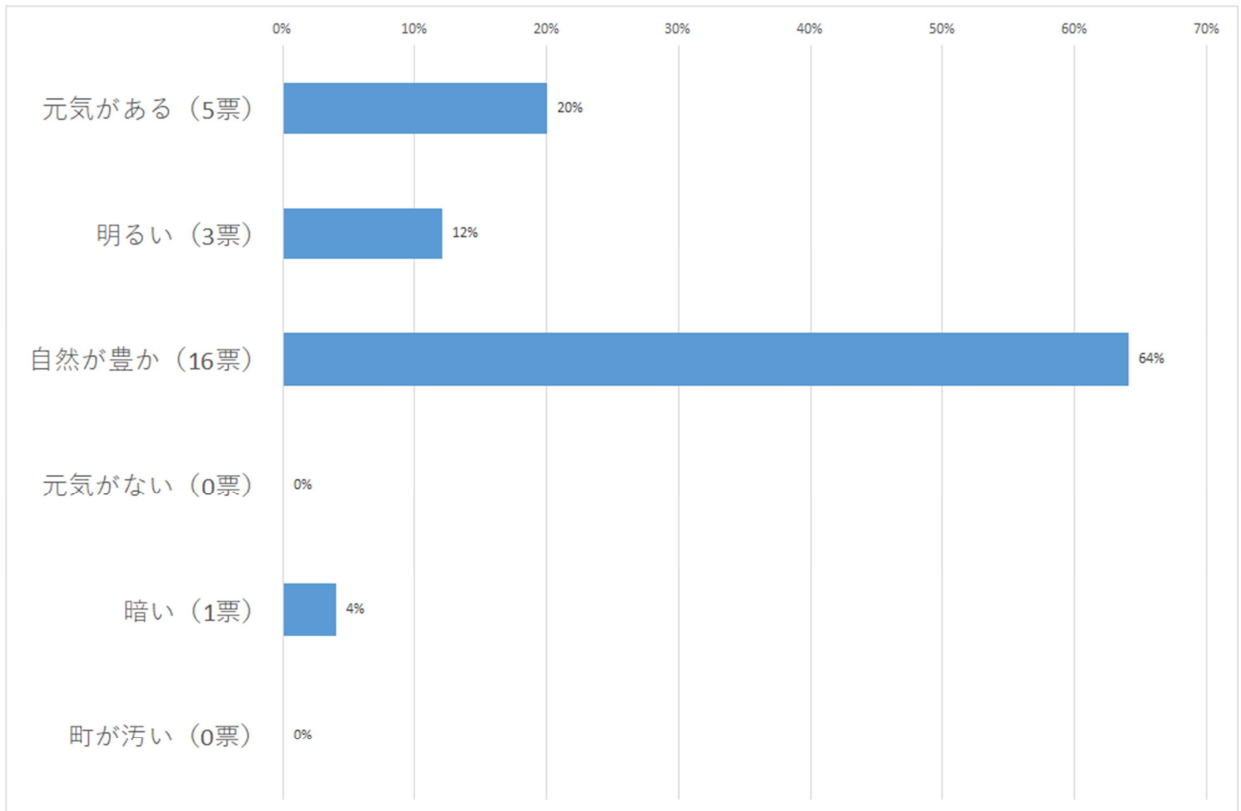
回答者16名の男女比は男性9名、女性7名となっている。

Q3 何回生ですか?(いずれか1つ選択)



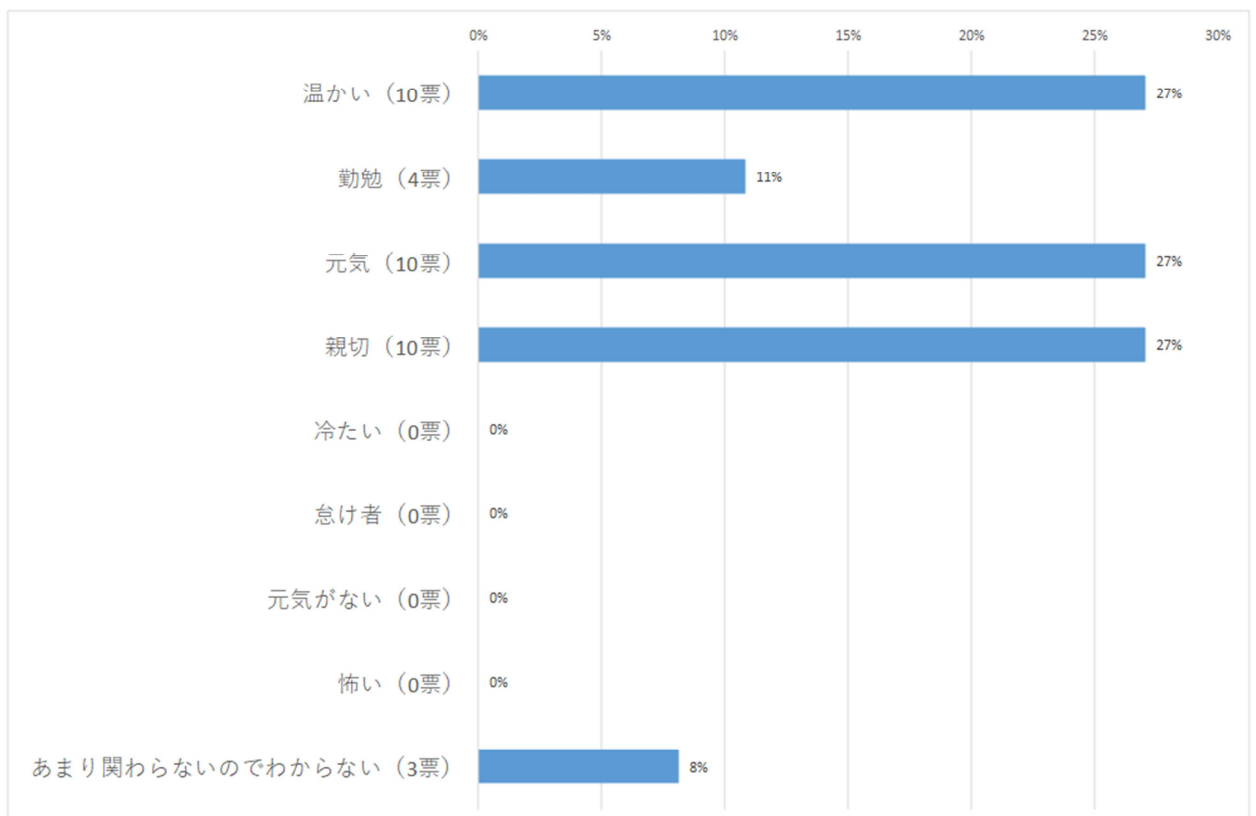
回答者は3回生が最も多く、7回生はいない。

Q4 津山市の印象はどうか？（複数回答可）



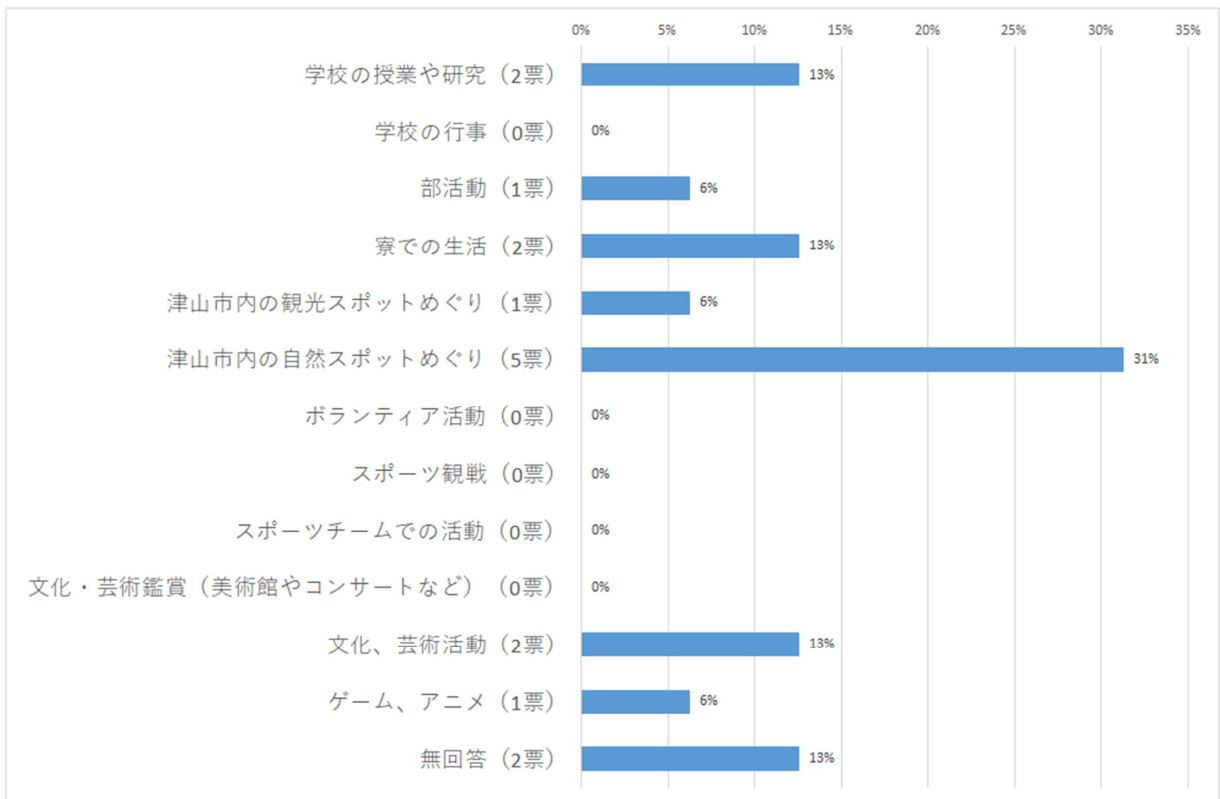
回答者 16 名すべてが、「自然が豊か」という印象を持っている。回答者の多くがポジティブなイメージを持っていることが分かった。

Q5 津山市の人の印象はどうか？（複数回答可）



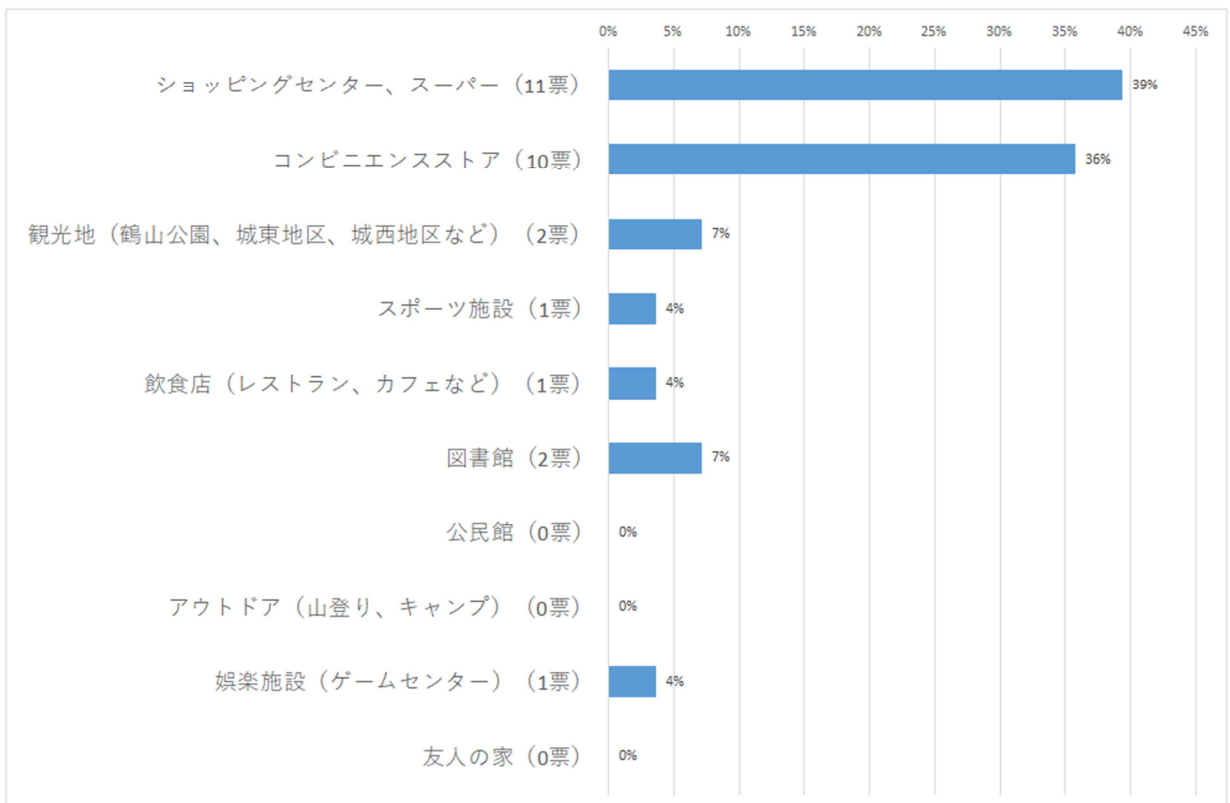
回答者のほとんどがポジティブなイメージを持っていることがわかった。「あまり関わらないのでわからない」と3名から回答があった。

Q6 日本の生活で一番楽しかったことは何ですか？（複数回答可）



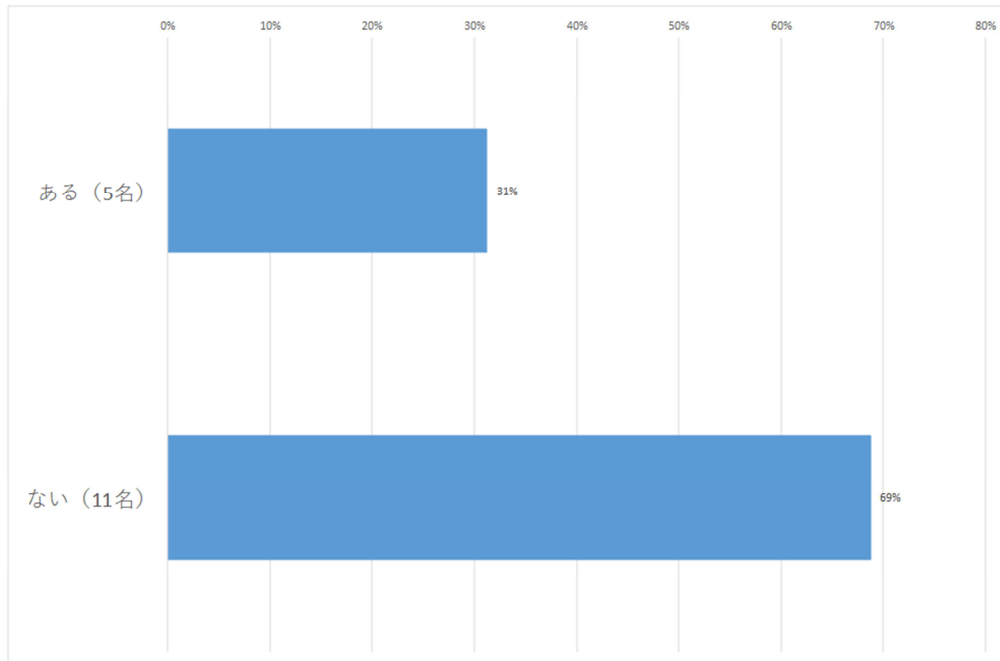
一番多いのは、「市内の自然スポットめぐり」で、自然が豊かな津山市で自然スポットを楽しんだことが印象的だったことがわかった。

Q7 津山市でよく行く場所はどこですか？（複数回答可）



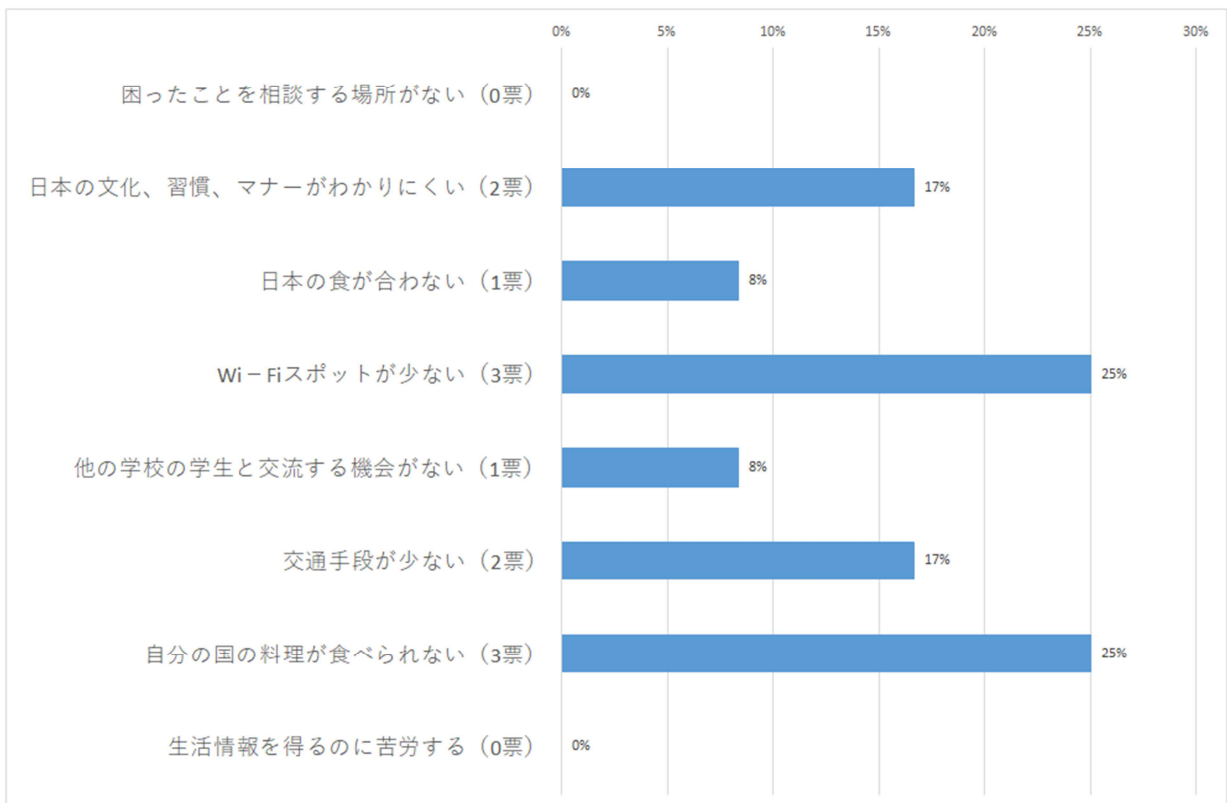
買い物のために出かけることは多いが、その他の場所には頻繁に出かけていないことがわかる。コロナ禍でなかなか出かけられないことも影響していると推察する。

Q8 津山市の生活で困っていることはありますか？（複数回答可）



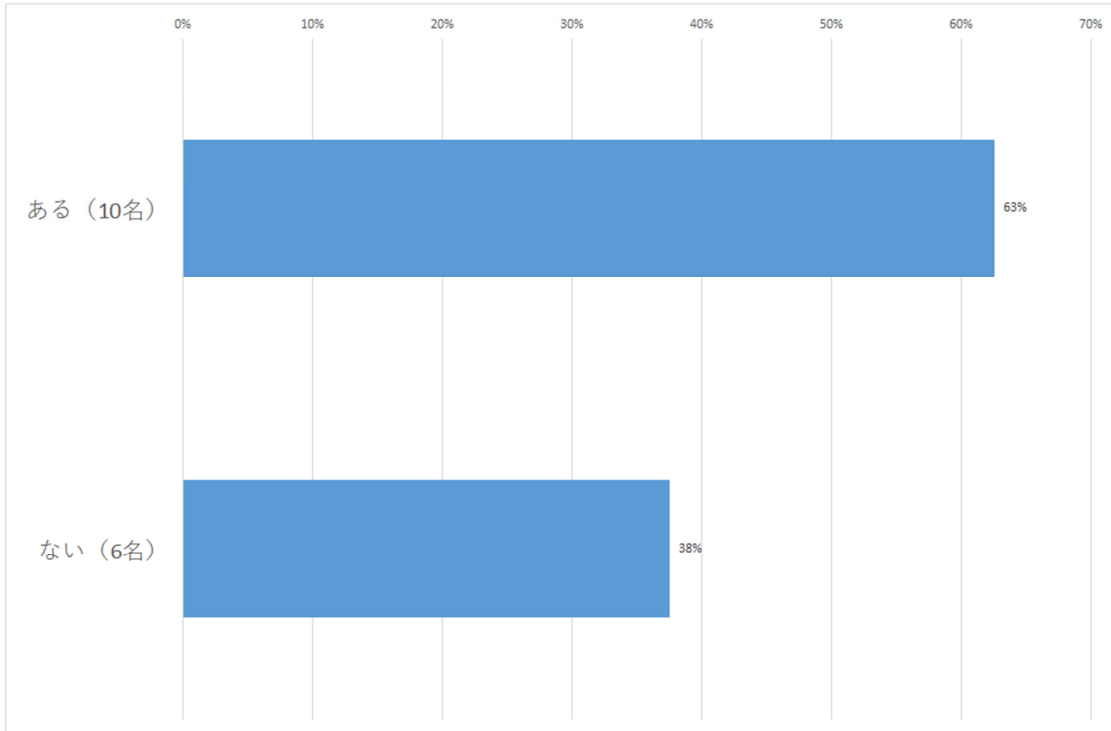
困っていることが「ない」人が「ある」人の2倍となっている。

Q9 Q8で「困っていることがある」と答えた人は、どんなことに困っていますか？（複数回答可）



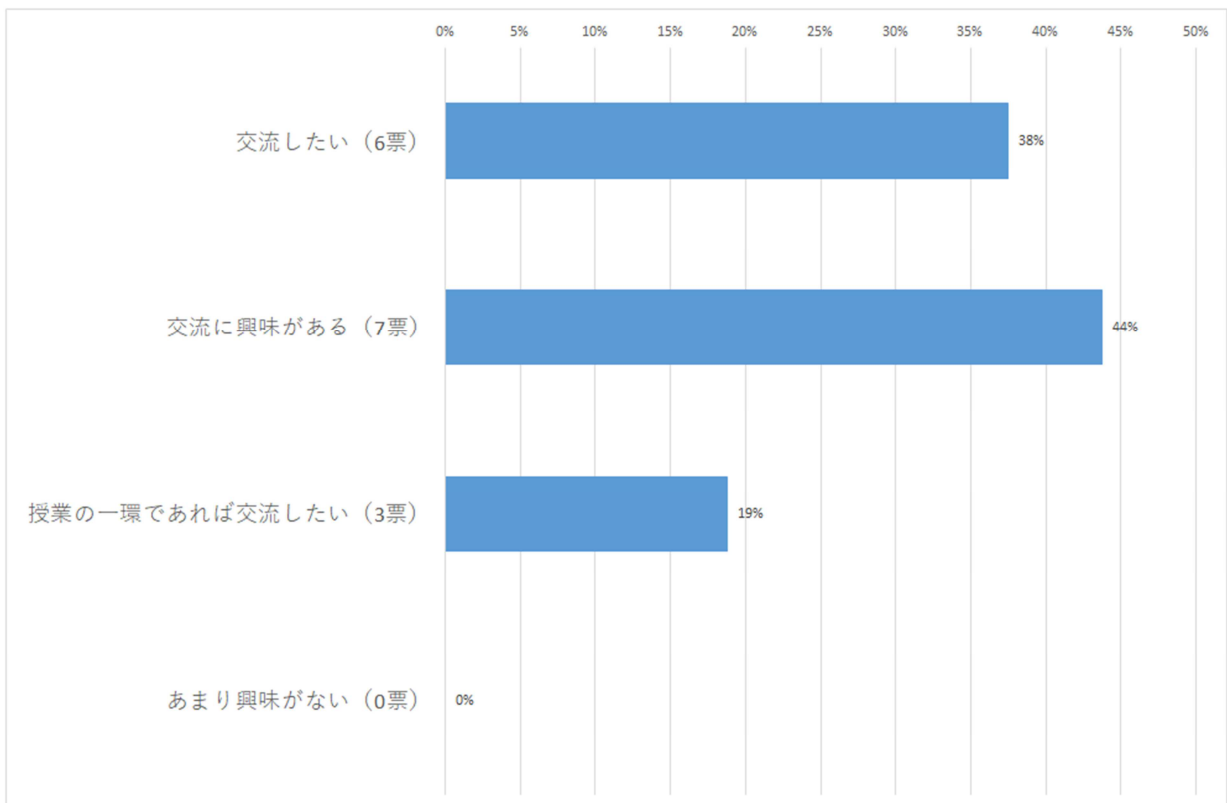
「Wi-Fiスポットが少ない」「自国の料理が食べられない」が最も多く、「日本の文化、習慣、マナーがわかりにくい」「交通手段が少ない」が次に多い。

Q10 津山に住んでいる人と交流をしたことがありますか？(学校以外の人との交流)
(いずれか1つ選択)



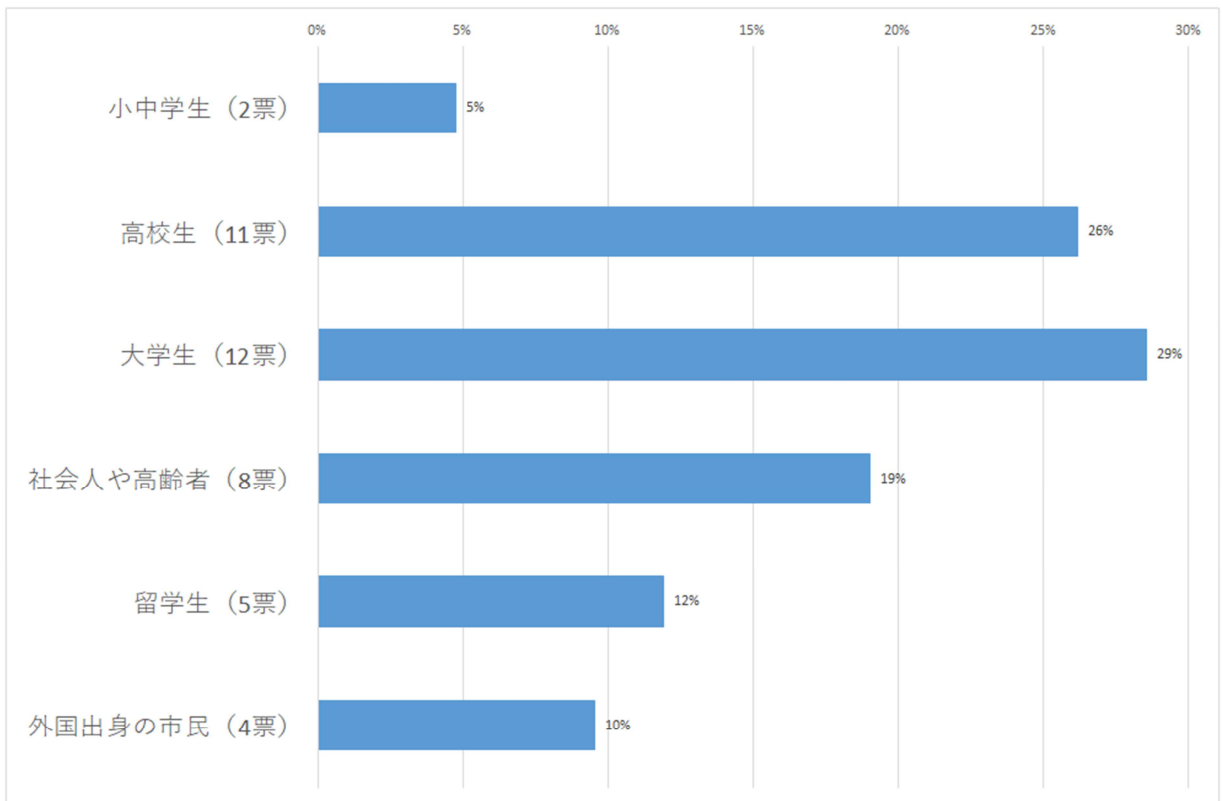
交流したことが「ある」人の方が多い。

Q11 津山に住んでいる人との交流をどのように思っていますか？(いずれか1つ選択)



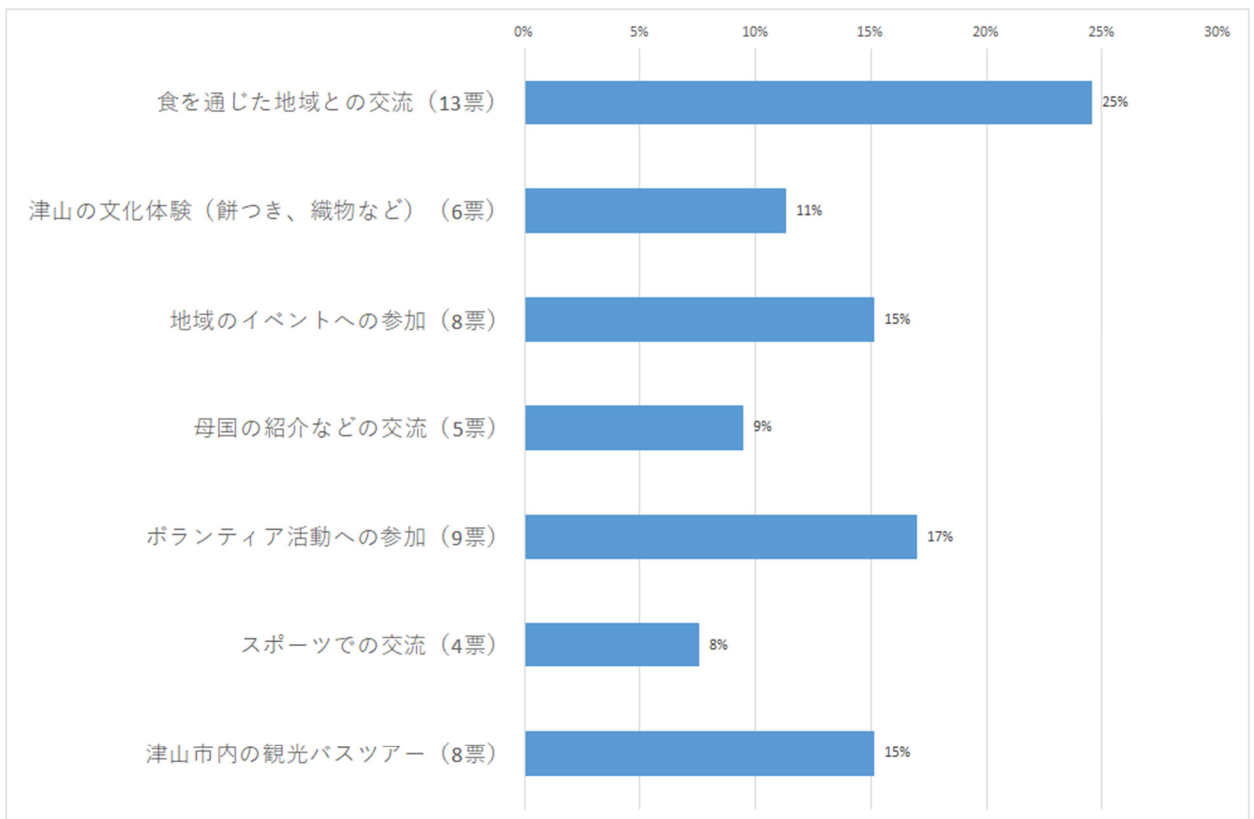
交流に「あまり興味がない」という人はいなかった。交流事業を開催することで、「交流したい」「交流に興味がある」人に交流の機会を提供することができる。

Q12 どのような年代と交流してみたいですか？(複数回答可)



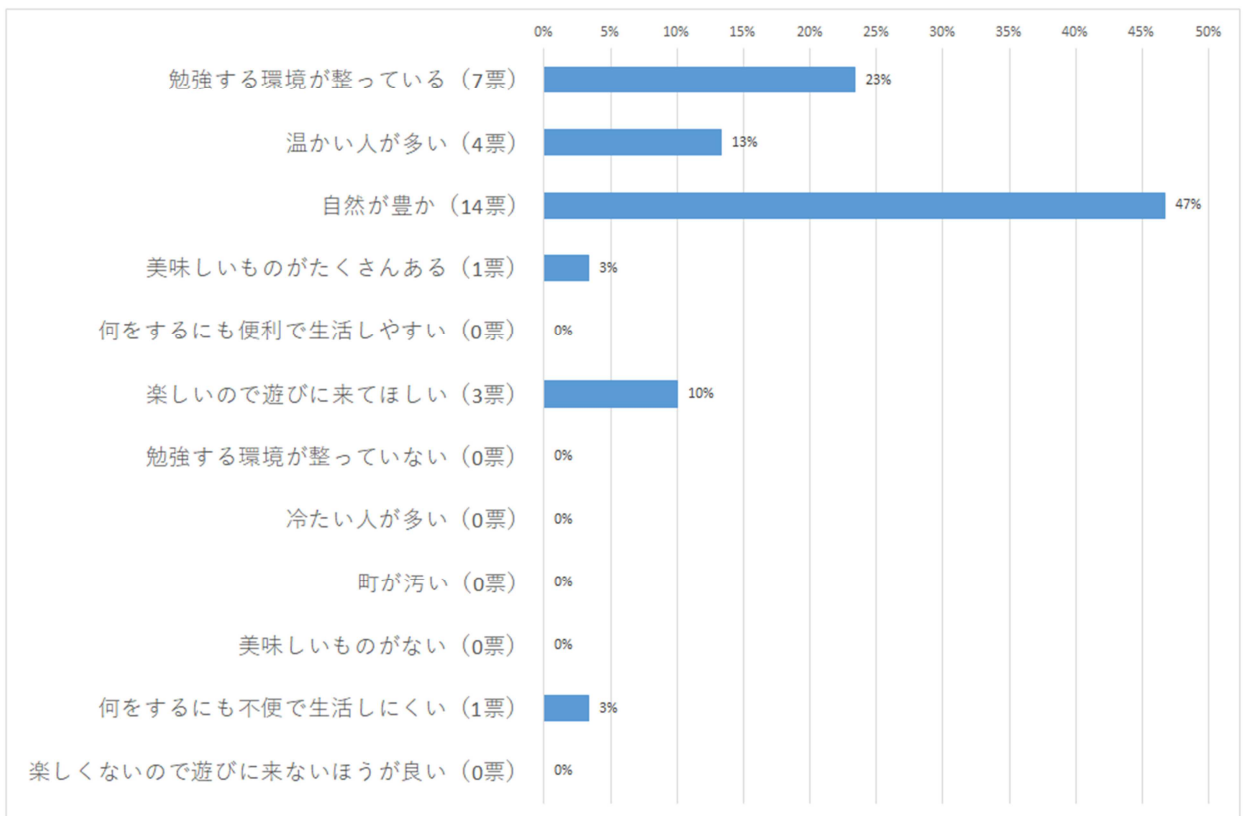
留学生と同世代である「高校生」「大学生」との交流に特に興味がある人が多いことがわかった。

Q13 どのような交流がしてみたいですか？(複数回答可)



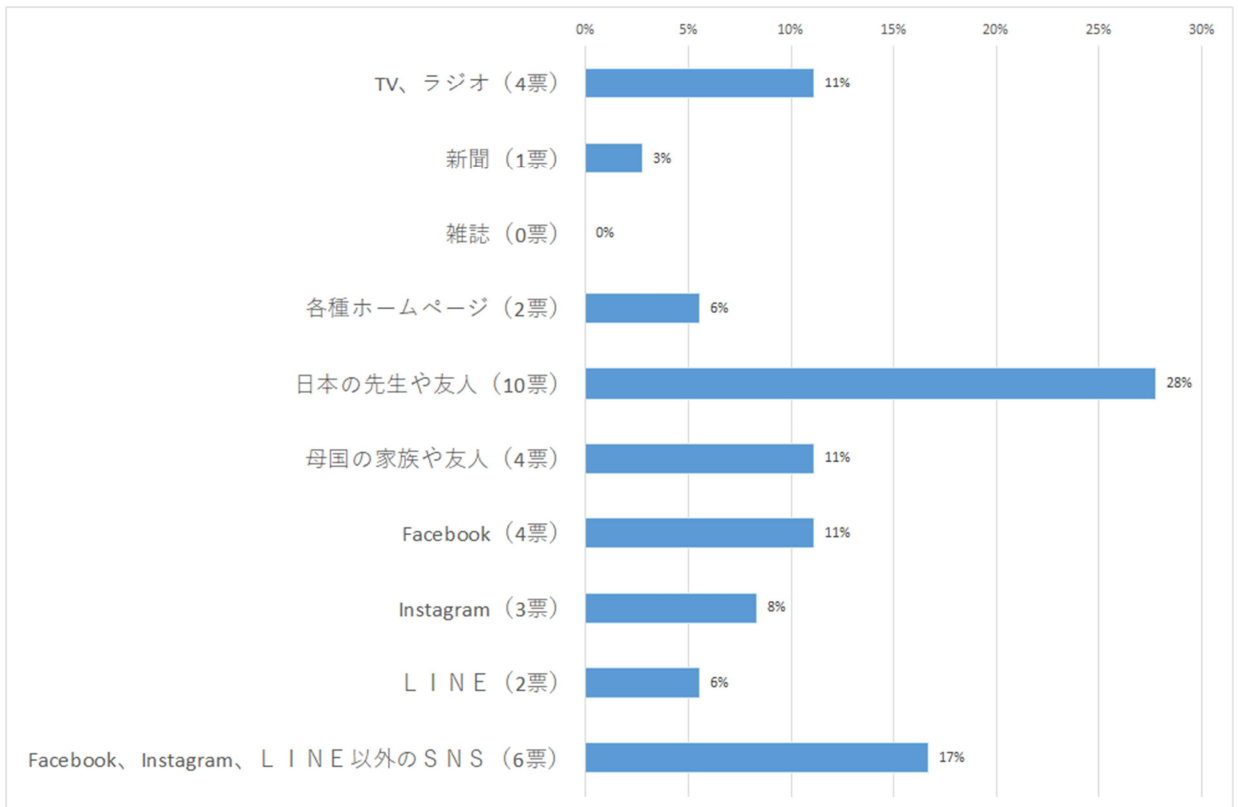
「食を通じた地域との交流」が最も多く、次に「ボランティア活動への参加」に興味を持っている人が多いことが分かった。Q13 で挙げたどの項目にも希望者がいることがわかった。

Q14 出身の国に帰ったら、津山市をどのように伝えますか？（複数回答可）



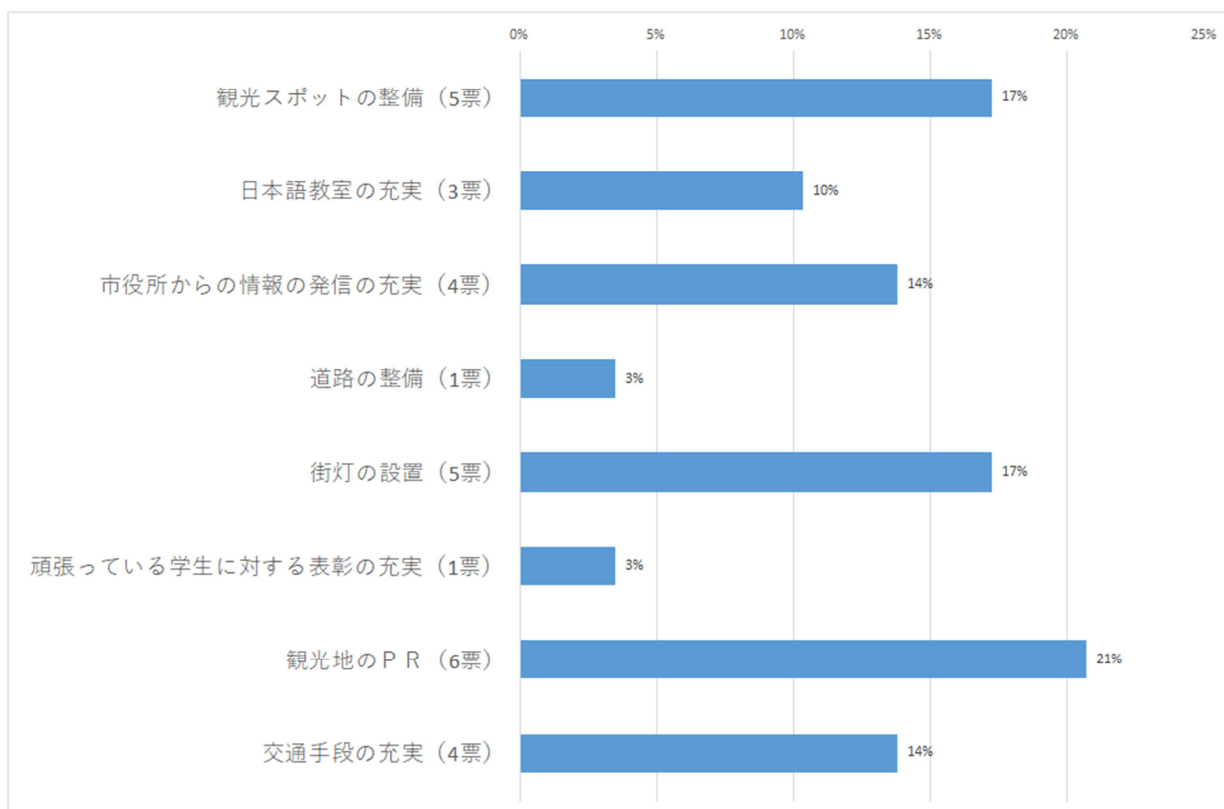
回答者のうち 14 名が「自然が豊か」と答えている。

Q15 生活情報はどこから得ていますか？（複数回答可）



「日本の先生や友人」が最も多く、次に「Facebook、Instagram、LINE 以外の SNS」から得ていることがわかった。

Q16 市役所が力を入れるべきことは何だと思いますか？(複数回答可)



「観光地のPR」が最も多く、次に「観光スポットの整備」「街灯の設置」という回答が多かった。

Q17 その他、ご自由に意見を書いて下さい。(自由記入)

- ・交通手段を充実してほしい

【まとめ】

- ・交流事業について、「興味がない」という回答はなく、「交流したい」「興味がある」が16名中13名、「授業の一環であれば交流したい」が16名中3名であった。この結果を受け、交流事業の実施は学生にとっても有意義な機会となることが想定される。
- ・交流したい年代は同世代の「高校生」「大学生」が最も多く、次いで「社会人や高齢者」となった。
- ・交流の内容について、上位から「食を通じた地域との交流」「ボランティア活動への参加」「地域イベントへの参加」「市内の観光バスツアー」「津山の文化体験」となった。
- ・日本で一番楽しかったことは「自然スポット巡り」が最も多かった。自転車では行きにくい少し離れた自然スポットを案内することが、学生に津山の魅力を伝え、津山での思い出づくりとなるのではと推察する。
- ・「困っていること」について、「自分の国の料理が食べられない」と3名から回答があった。学校給食で留学生の母国の料理(日本風になるが)を提供し、留学生にも食べてもらうことで少しでも喜んでもらえればと考える。
- ・高専の留学生の他、美作大学の留学生にも参加者を募ることで、両校の留学生同士の交流も生まれることが望ましい。また、美作大学の学生にボランティアなどで関わってもらうことで、美作大学の学生の国際交流や国際協力への意識向上に繋げていきたい。